

事例番号:300142

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

3回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 4 日

9:29 陣痛発来のため搬送元分娩機関を受診

9:45- 胎児心拍数陣痛図で軽度変動一過性徐脈、軽度遷延一過性徐脈を認める

10:30 分娩監視装置による管理のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 37 週 4 日

10:41- 胎児心拍数陣痛図で軽度変動一過性徐脈、軽度遷延一過性徐脈、軽度および高度遅発一過性徐脈を認める

13:15 絶叫状態

13:17 右下腹部痛(+)

13:20 血性羊水あり、超音波断層法で胎児心拍数 80 拍/分台

13:40 常位胎盤早期剥離の診断で当該分娩機関へ母体搬送され入院、超音波断層法で胎児心拍確認できず

13:58 帝王切開により児娩出、手術時血性腹水中等量あり、膀胱子宮窩を高い位置で切開し展開すると血腫あり、その奥に児頭と手が出ている状態、子宮破裂の診断

胎児付属物所見 胎盤は 20%の早期剥離所見あり

## 5) 新生児期の経過

- (1) 在胎週数:37 週 4 日
- (2) 出生時体重:2644g
- (3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.759、PCO<sub>2</sub> 84.2mmHg、PO<sub>2</sub> 19.8mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 11.7mmol/L、BE -25.3mmol/L
- (4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハックル・マスク、チューブ・ハックル)、胸骨圧迫、気管挿管
- (6) 診断等:  
出生当日 重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症(Sarnat 分類ステージ 3)
- (7) 頭部画像所見:  
生後 9 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### <搬送元分娩機関>

- (1) 施設区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医 1 名  
看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 1 名

### <当該分娩機関>

- (1) 施設区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師:産科医 4 名、小児科医 1 名、麻酔科医 3 名、研修医 1 名  
看護スタッフ:助産師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は子宮破裂および常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症であると考ええる。
- (2) 子宮破裂の原因は不明である。
- (3) 常位胎盤早期剥離の関連因子は認められない。
- (4) 子宮破裂の発症は妊娠 37 週 4 日 13 時 15 分頃と推定されるが、常位胎盤早

期剥離の発症時期について特定することは困難である。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価

#### 1) 妊娠経過

妊娠管理は一般的である

#### 2) 分娩経過

##### (1) 搬送元分娩機関

- ア. 妊娠 37 週 2 日陣痛発来とされ入院となったが、分娩監視装置装着および内診を実施し、子宮収縮軽度と判断し、一時退院としたことは一般的である。
- イ. 妊娠 37 週 4 日外来受診時の胎児心拍数陣痛図上、胎児心拍数異常(軽度変動一過性徐脈、軽度遷延一過性徐脈)を認める状態で、入院管理とし、分娩監視装置による監視を続行したことは一般的である。
- ウ. 入院後の胎児心拍数陣痛図上、胎児心拍数異常(軽度変動一過性徐脈と軽度遷延一過性徐脈、軽度および高度遅発一過性徐脈)を認める状態で、11 時 10 分に帝王切開の可能性について妊産婦と家族に説明し絶飲食としたことは一般的である。
- エ. 13 時 15 分に妊産婦が絶叫状態となり、その後胎児心拍を聴取できない状態で、超音波断層法を実施し原因検索を行ったことは一般的である。
- オ. 超音波断層法にて徐脈を認め、常位胎盤早期剥離の診断で母体搬送としたことは選択肢のひとつである。
- カ. 常位胎盤早期剥離の診断で母体搬送決定後にリトリン塩酸塩注射液を投与したことには、賛否両論がある。

##### (2) 当該分娩機関

- ア. 搬送依頼を受けた時点より帝王切開の準備を行い、当該分娩機関到着から 18 分で児を娩出したことは適確である。
- イ. 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

#### 3) 新生児経過

新生児の蘇生(胸骨圧迫、バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である

#### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

##### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

###### (1) 搬送元分娩機関

なし。

###### (2) 当該分娩機関

なし。

##### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

###### (1) 搬送元分娩機関

なし。

###### (2) 当該分娩機関

なし。

##### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

###### (1) 学会・職能団体に対して

ア. わが国における子宮破裂の発生頻度や発生状況について全国的な調査を行い、子宮破裂の関連因子および発症予防法について検討することが望まれる。

イ. 常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

###### (2) 国・地方自治体に対して

なし。